

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(特別支援学校西日野にじ学園)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		○子どもたち一人ひとりの能力や特性に応じた教育をすすめ、自立と社会参加を目指します。 ○子どもたちが、社会の一員として明るく主体的に生きることができるよう、自立のために必要な知識・技能を育成します。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	○自ら考え、意欲的に学ぶ子ども ○自分の成長に感謝し、自他のかけがえのない命を大切にする子ども ○基本的生活習慣を身につけ、心身共に健康で安定した生活ができる子ども ○コミュニケーション力や社会性を身につけ、社会的・職業的に自立する子ども
	ありたい教職員の姿	○専門性を身につけ、意欲的で熱意ある教育実践を行う教職員 ○互いを尊重し認め合い高め合うことができる教職員 ○常に自らの言動を振り返り、児童生徒や保護者・地域から信頼される教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<児童生徒> ○毎日の学校生活を安全・安心に楽しみたい。 ○自分の思いを受け止め、持てる力を伸ばしてほしい。 ○友だちや教職員など、いろいろな人とつながりたい。 <保護者> ○楽しく、安全・安心な学校生活を送ってほしい。 ○子どもの思いを受け止め、一緒に考えてほしい。 ○卒業後の自己実現に向けて取り組んでほしい。 <地域> ○地域における特別支援教育の充実と推進してほしい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 <自治会・学校所在地区住民等> ○どんな学校なのか、様子を知りたい。積極的に情報を発信するなど、開かれた学校を目指してほしい。 <交流相手校> ○互いの子どもたちが、人権感覚を身につけられるような交流及び共同学習にしたい。 <実習先・就労先> ○挨拶・働く意欲など、基本的に必要な力を身につけてほしい。実習から就労した後まで、継続して連携していきたい。	連携する相手への要望・期待 <自治会・学校所在地区住民等> ○学校や子どもたちのことを、実際に見たり聞いたりして知してほしい。 <交流相手校> ○本校の子どもたちのことを理解したうえで、地域に住む仲間として関係を築いてほしい。 <実習先・就労先> ○安全に、安心して意欲的に活動することができる労働環境や生活の場を提供してほしい。
(3)前年度の学校関係者評価など	○地域等との関係性を深めるため、交流学習や人権教育などを通じて地域の様々な場面で児童生徒が主体的に活動できるよう、負担とならない範囲でさらに取組を進められるとよい。 ○時間外労働時間の削減については、実際の勤務の状況や業務内容などを踏まえて、教員ひとり一人がライフワークバランスの意識向上と合わせて、さらに働き方の改善に向けて取り組む必要があるのではないか。	

(4)現状と課題	教育活動	○教育課程の編成において「各教科等を合わせた指導」が中心となっており、教科を意識した授業づくりに課題がある。「著作教科書(☆本)」を効果的に活用した指導を推進する必要がある。 ○個々に応じた指導・支援の一層の充実を図るため、各学部の系統性・連続性を意識した「西日野キャリアプラン」に基づく指導・支援及び情報共有など連携・協力体制の充実を図り、自己実現及び自立と社会参加につながる学びを推進する。 ○令和8年度から四日市市が実施する副次的な籍について、現在の交流及び共同学習の内容を検証し発展させるため、関係機関及び地域や保護者等と情報共有を密にして、児童生徒が地域とのつながりを深められるよう取組を進める。
	学校運営等	○特別支援教育に係る基礎的な知識・技能の習得や児童生徒への適切な指導・支援の実施など、教職員の専門性の維持・向上を目指して、外部講師による研修を引き続き実施するとともに内容の充実を図る。 ○人権教育の充実やコンプライアンス遵守の意識向上など、現在の計画や取組を見直したうえで改善を図る。また、児童生徒増に伴う教職員の増加を踏まえ、教職員間の円滑なコミュニケーションや役割分担による業務負担の軽減など、組織体制の見直し及び再編に取り組む。 ○全体の取組を通じて、児童生徒や保護者、教職員にとって、安全・安心な学校づくりを推進する。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<1 学習指導の充実> ○「教科を合わせる」ことの意味や教科の視点にたった学習内容の実施や教育課程の見直しを進めるとともに、各教科の内容の指導を充実させることが必要である。 ○教職員研修等を通じて学習指導要領における各段階及び各教科の目標や学びの連続性について確認する。「知的障害者用教科書」を活用した指導の実施を進める。教育課程の見直しを進める。 <2 自立と社会参画を見据えた教育の充実> ○自立と社会参加に必要な力を身につけられるよう、組織的・計画的なキャリア教育を推進する。各学部の進路指導のつながりや学習内容の系統性を確認して教育活動を進める。また、教職員および保護者が「西日野キャリアプラン」の理解を深め、学校と保護者が一体となって児童生徒のキャリア形成を支える体制を推進する。 ○地域とのつながりを意識した「交流及び共同学習」を推進する。間接交流を積極的に進める。具体的には、ICT機器の活用や作品展示交流について検討し、継続的・計画的な取組を進める。 <3 自己肯定感を涵養する教育の推進> ○児童生徒が自分の努力や成長を実感できるよう、実施する行事では、達成感を重視した具体的目標の設定および丁寧な振り返りを行う。特に学校全体行事である「にしひのまつり」では、児童生徒が主体的に役割を担い、多様な仲間と協同する機会を創出できるような実施計画とする。 ○児童生徒会が中心となって互いを認め合うよりよい学校づくりを推進する。 <4 人権教育の推進> ○人権カリキュラムに基づき、各教科・領域等における体系的な指導を進めるとともに、カリキュラムの見直しを行う。 ○児童生徒が自他の人権を尊重し、日常生活の中で適切な意思表示や相談ができる実践的行動力を育成する。
学校運営等	<1 危機管理体制の強化> ○防災ノートを活用した防災教育を推進し、児童生徒の危機管理意識を高める。 ○緊急時対応訓練を定期的実施し、安全管理体制の強化と教職員の対応力向上を図る。国や県の方針に基づいた危機管理マニュアルの見直しを図る。 <2 特別支援学校センター的機能の充実>

	○地域のニーズに応じた公開研修会の開催や、特別支援教育コーディネーターによる巡回相談等を通じ、北勢地域における特別支援教育の推進に寄与する。 ○校内支援では自立活動の充実を図り、セラピスト等の外部専門家との連携による指導助言体制を強化する。 <3 学びを支える教育環境の整備> ○教職員の専門性の向上を図るため、日常の指導や支援に役立つ基礎的な内容を中心とした研修会を実施する。 ○人材育成の視点から校内外の学びの機会を提供する。 ○信頼される学校づくりを推進するため、コンプライアンスを遵守しようとする意識の継続や不祥事根絶研修を定期的実施する。また、保護者学校評価アンケートを実施するとともに結果や内容を学校運営に反映させる。 ○教職員の働き方改革を推進する。校務DXの推進として、「学校連絡 すぐーる」の効率的活用方法を整理し、教職員の業務削減を進める。教職員満足度調査を実施や同僚性を高めるための取組を進めることで、働きやすい職場づくりを推進する。また、学校経営の中核となる教職員との対話により学校運営を活性化させる。 ○地域との連携を進め、ホームページ等を活用したタイムリーな情報発信を行う。
--	---

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
	<1 学習指導の充実> (1)各教科における指導の充実 (2)教育課程の見直し 【活動指標】 ○学習指導要領の「段階」理解促進研修会を実施(1回) ○国語・算数数学の学びのラーニングマップ理解促進研修会の実施(1回) ○「知的障害者教科書」の内容理解促進研修会の実施(1回) ○教育課程の見直し検討会の実施(2回) 【成果指標】 ○教科別の学習への転換が求められていることの「理解が深まった」と回答した教職員の割合(80%以上) ○教育課程の見直し(3学期はじめまでに素案提案) <2 自立と社会参画を見据えた教育の充実> (1)キャリア教育の推進 (2)交流学习の充実 【活動指標】 ○企業実習の実施(高等部 のべ4回) ○進路資源マップの更新及び活用(1回) ○小学部中学部保護者を対象とした進路説明会の実施(1回) ○互いを理解し、尊重し合う機会となる学校間交流を実施(各学部 1回以上実施) ○間接交流の実施(学校全体で20回以上) 【成果指標】 ○高等部2年生の1回目の企業実習において、示された課題を意識し2回目の実習で「改善できた」と実感した高等	(年度末および適宜記載)	◎

	部2年生の生徒の割合(80%以上) ○小学部中学部の保護者において、「進路指導の流れが理解できた」と回答した保護者の割合(80%) <3 自己肯定感を涵養する教育の推進> (1)児童生徒の達成感を意識した行事「にしひのまつり」の計画と実施 (2)生徒主体の自主活動の充実 (互いを認め合う学校づくり) (3)「自分らしさ」を育むウェルビーイングの実現に向けた取組の推進 【活動指標】 ○「にしひのまつり」の実施(1回) ○いじめ防止強化月間における自主活動の実施(1回) ○自主活動校内クリーン活動の実施(1回) ○「自分らしさ」について考える学習の実施(1回) 【成果指標】 ○「にしひのまつり」実施後の振り返りで「自分の発表をがんばった」と答えた小学部児童の割合(80%以上) ○「にしひのまつり」実施後の感想やアンケートで「自分の力を出し切った」、「自分の当番や役割をがんばった」と達成感を持つことができた中学部高等部生徒の割合(90%以上) ○「にしひのまつり」実施後のアンケートで「学校の取組が理解できた」と回答した保護者地域の割合(80%以上) ○自主活動に参加した生徒で、「学校のために役立つことをした」という実感した生徒の割合(100%) ○「自分にはよいところがある」と思う生徒の割合(中学部高等部 80%) <4 人権教育の推進> (1)実践的行動を促す教育実践 (2)多様な仲間との協同 【活動指標】 ○高等部人権学習の実施(1回) ○人権カリキュラムの見直し(1回) ○自他の人権について意見を表明するなどの社会的活動への参加(1回) 【成果指標】 ○高等部生徒において「困ったときや何かおかしいと感じたときに周囲の人に相談する」と回答した生徒の割合(80%以上) ○社会的活動へ参加した生徒で「人権を守ることが大切である」と感じた生徒の割合(100%)		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
	<1 危機管理体制の強化> (1)児童生徒の防災教育の推進 (2)教職員の危機管理体制の強化 【活動指標】 ○防災ノート等を活用した防災学習の実施(2回) ○国や県のポイントを踏まえた危機管理マニュアルの見直しの実施(2回) ○地域と連携した合同防災訓練の実施(1回) ○教職員対象救急法講習の実施(1回) ○スクールバス避難訓練の実施(1回) ○発作時における対応訓練の実施(1回) ○自主通学登下校指導(每学期1回 3回) 【成果指標】 ○高等部生徒において「自分の命は自分で守る」ということが理解できた生徒の割合(80%以上) ○危機管理マニュアルの改訂(精度向上) <2 特別支援学校センター的機能の充実> (1)北勢地域における特別支援教育の推進 (2)校内支援の充実 【活動指標】 ○夏季公開研修会の実施(1回) ○地域向けの体験研修会を実施(1回) ○セラピスト等による校内支援の実施(2回以上) 【成果指標】 ○夏季公開研修会後のアンケートにおいて「研修内容が明日からの実践につながった」と回答した参加者の割合(80%以上) ○地域向けの体験研修会後のアンケートにおいて「体験研修会が明日からの実践につながった」と回答した参加者の割合(80%以上) ○校内においてセラピストを活用したことで、「指導内容が充実した」と感じた教職員の割合(80%以上) <3 学びを支える教育環境の整備> (1)教職員の専門性の向上 (2)信頼される学校づくりと不祥事の根絶 (3)教職員の働き方改革の推進と働きやすい職場づくり (4)地域連携の推進 【活動指標】 ○日常の指導支援に役立つ基礎的な内容を中心とした研修会を実施(8回) ○人材育成の視点から校内外の学びの機会を提供(学校組織リーダー研修へ参加 3名) ○不祥事根絶研修としてミーティング及びコンプライアンス研修の実施(研修8回 ミーティング2回) ○保護者学校評価アンケートを実施(1回) ○授業参観後の保護者アンケートを実施(各学部1回)	(年度末および適宜記載)	※

	○教職員満足度調査の実施(1回) ○学校経営の中核となる教職員との対話(1回) ※三重県型マネジメントシステムの活用 ○設定した定時退校日に退校した教職員の割合(90%以上) ○部活動における複数顧問体制の実施(1部) ○設定した休養日を実施した部活動の割合(100%) ○放課後に開催した委員会・職員会議において60分以内に終了した会議の割合(90%以上) ○「学校連絡ずぐる」を活用した業務改善(9月目途に整理) ○定時退校ポスターの掲示(12回) ○学校ホームページ等からの発信(10回) ○地域と連携した取組やイベント等への参加(3回以上) 【成果指標】 ○保護者アンケート(学校評価)において、「子どもが安心して学校へ通っている」と回答した保護者の割合(80%以上) ○授業参観後の保護者アンケートにおいて、「教職員の関わり方が適切である」と回答した保護者の割合(80%以上) ○教職員満足度調査において、「自分の仕事にやりがいを持っている」と回答した教職員の割合(80%以上) ○教職員満足度調査において、「精神的不安がない」と回答した教職員の割合(80%以上) ○時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数(0人/153人) ○時間外在校等時間が月80時間を超える教職員ののべ人数(0人/153人) ○時間外在校等時間が月45時間を超える教職員ののべ人数(0人/153人) ○1人当たりの月平均時間外在校等時間(30時間以下 0人/153人) ○1人当たりの月平均時間外在校等時間(7時間以下 0人/153人) ○1人当たりの年間休暇取得日数(10日以上 153人/153人)		
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
--------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
--------------	----------

学校運営について の改善策	(年度末に記載)
------------------	----------